

たけた あそ
中九州横断道路(竹田～阿蘇)

第3回 説明資料(別冊)

【第2回意見聴取結果】

平成31年2月8日

国土交通省 九州地方整備局



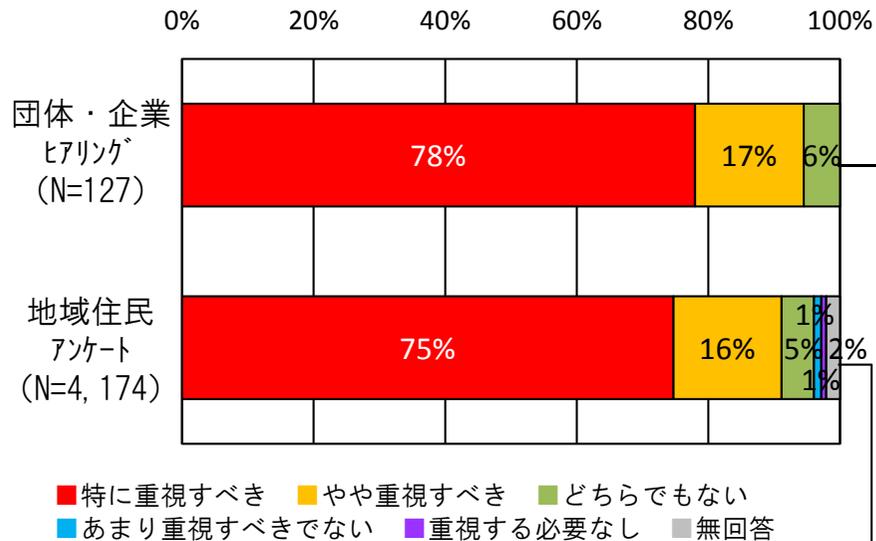
第2回意見聴取の結果

(1)ルート帯案に関すること

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【①災害時に国道57号の代替路として利用できること】

- いずれの意見聴取方法においても、9割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、災害時の代替路や災害に強い道路の整備が求められている。
- 自治体意見においても、災害に強い代替路が必要との意見が寄せられた。



- 災害時に代替路として利用できることを重要視する。（竹田市）
- 人の命を繋ぐ道路であり、止まってはいけない。（阿蘇市）
- 災害時に国道57号の代替路とするならば、地震等の経験を活かし、国道57号と離れた場所を通すべきだと思う。（竹田市）
- 熊本地震、積雪、大雨のときに代替となる道路が必要。（大分市）
- 竹田で災害が起きるかもしれないので、現道から別線として数百m離れた道路が良い。（熊本市）
- バイパスであると国道57号が止まった時に役立つと思う。（竹田市）

- 災害の多い地域なので、代替路として確実にルートを確認でき、通行止めリスクの少ない道路にしてほしい。（竹田市）
- 災害や緊急時に孤立などの不安を感じるため、阿蘇や竹田へ向かう道を増やしてほしい。（産山村）
- 近年地震や台風、大雨等の災害が多発しているため、災害に強い道路を期待する。（阿蘇市）
- 豪雨や地震災害が多発しているので、早期の完成を望む。（竹田市）
- 橋の無い現在の国道57号が最も安全性が高い。（阿蘇市）

【自治体意見】

- ・ 熊本方面からの自衛隊派遣（災害救援活動）や緊急輸送に重要な道路となるため、リダンダンシーの観点から、現道とは離れた別ルートの自動車専用道路が望ましいと考えられる。（大分県）
- ・ 九州北部豪雨・熊本地震が、市民生活や経済流通、観光交流に大きな打撃を与え、改めて災害に強い代替道路としての中九州横断道路の必要性を痛感し、災害に強い代替道路の確保が近々の課題と考える。（阿蘇市）

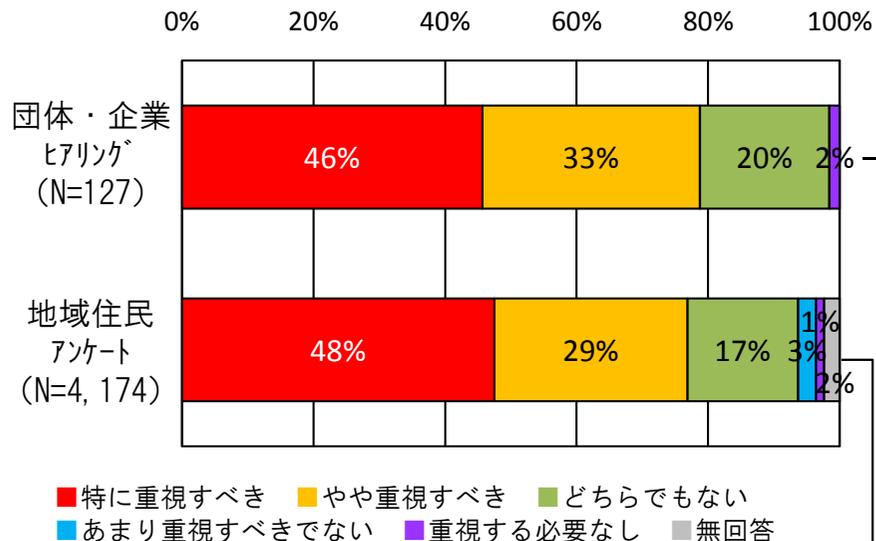
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果

【②産業施設と大分市・熊本市の卸売市場間の移動時間が短く、商品の荷痛みが少なく走りやすいこと】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、農産物出荷の際の速達性の向上が期待されている。
- 自治体意見においても、産業施設間の移動時間短縮が重要視されている。



- 基幹産業が農業であり、物資をいかに早く輸送できるかが大事である。（竹田市）
- 産業を活性化させ、地域に人が定住するような計画を期待する。（大分市）
- 現在は、関東、関西へ陸送しているが、道路整備による時間短縮によって別府港からのフェリー輸送が利用できるようになるため、労働環境改善等の効果が期待できる。（熊本市）
- 急な対応で迅速な輸送が必要な場合があるため、道路が増えることに期待する。（阿蘇市）

- 農業の運送がスムーズにできることを望む。（阿蘇市）
- 野菜の大産地であるため、出荷の際の時間短縮は地域にとって非常に重要である。（産山村）
- 地域の農産物を新鮮な状態で大分市、熊本市へ送れるようになることは、生活向上に役立つと思う。（産山村）
- 産業拠点や人の多い集落に結ぶことが重要である。（竹田市）
- 竹田市は大分～熊本間の運送量が多いことで活気づいているため、時間短縮が必要である。（竹田市）

【自治体意見】

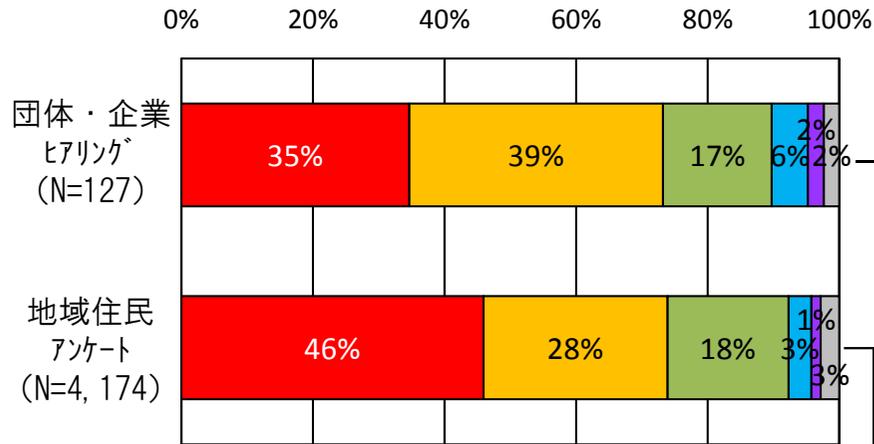
- ・ 竹田市の農業生産額は県内トップであり、キャベツやトマトあるいは豚や鶏の出荷には、移動時間の短縮や荷傷みの抑制は必要不可欠である。（竹田市）
- ・ 産業施設間の移動時間が短く走りやすいことで、平時、災害時において安定的な物流ルートが確保され、商品の鮮度を保ち、輸送にかかる人件費等のコスト削減へと繋がる。（阿蘇市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【③観光地間の移動時間が短いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、観光産業の活性化に寄与する道路整備が求められている。
- 自治体意見においては、観光地間の移動時間短縮を期待する意見が寄せられた。



- 阿蘇から竹田に観光客が入ってくることに期待できる。（大分市）
- 国道442号に接続しないとくじゅう高原に観光客が流れてこないと思う。（竹田市）
- 道路が便利になることで観光客が入ってくれば良いと思う。（福岡市）
- 大分～熊本間の観光交流が今は少ないが、中九州道で交流が増えることに期待する。（熊本市）

- 広域的な観光の連携において道路整備が重要である。（阿蘇市）
- 観光に力をいれるためには道路整備が必須である。（竹田市）
- 観光が盛んになるような道路整備をしてほしい。（産山村）
- 今は国道57号を使って観光をしているが、中九州横断道路ができればもっと早く行けるので期待している。（菊陽町）
- 中九州横断道路ができれば、もっと周遊ができると思う。（熊本市）
- 阿蘇へ行きやすくなる反面、日帰りがより容易になるため、経済効果はプラス面とマイナス面がある。（阿蘇市）

【自治体意見】

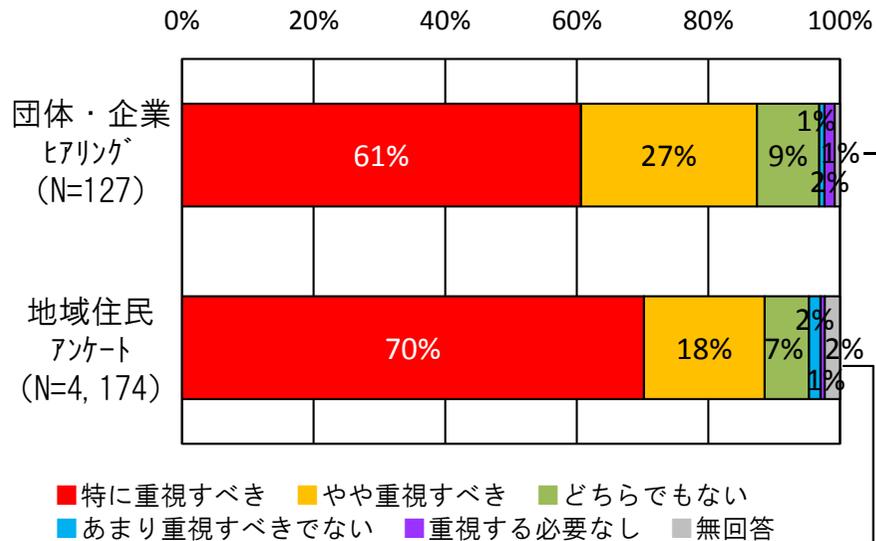
- ・ 災害や観光、医療面で重要な道路であり、観光周遊ルートとしても期待できるため、別線整備で移動時間を短くすべき。（大分市）
- ・ 中九州横断道路ができれば、大分～熊本の所要時間が短縮され、利便性の向上や交流人口の増加に繋がる。（熊本市）
- ・ 阿蘇くじゅう国立公園に位置する久住高原や岡城跡さらには日本有数の炭酸泉である長湯温泉など、全国でもトップクラスの観光資源を有する本市にとって、都市部からの移動時間の短縮は特に重視する。（竹田市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【④大分市・熊本市の第3次救急医療施設へ1時間以内に多くの人が行けること】

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、大分市・熊本市の救急医療施設への搬送時間短縮が求められている。
- 自治体意見においても、高次医療施設への速達性を重視する意見が寄せられた。



- 救急搬送は所要時間が短いほど良いため、医療施設への移動は重視する。（竹田市）
- 医療面は大事であり、大分市・熊本市への良い道が必要。（阿蘇市）
- ドクターヘリのヘリポートなどへの救急車のアクセス向上に期待ができる。（竹田市）
- 医療のアクセスはヘリを活用するほうが早い。（阿蘇市）

- 都市中心へ60分圏内で往来できることは、生命の保持や安心安全に繋がる。（産山村）
- 高齢者には救急医療施設への移動時間短縮は安心できる。（竹田市）
- 命に関わる道なので、一刻も早い完成を望む。（竹田市）
- ドクターヘリもあるが、すぐに大きい病院へ行けることが必要である。（阿蘇市）
- 大きな病院がないため、今は大分市へ行くが、中九州横断道路ができれば熊本市が近くなるため期待している。（竹田市）
- 大分へ向かうため、医療と暮らしのメリットは小さいと思う。（竹田市）

【自治体意見】

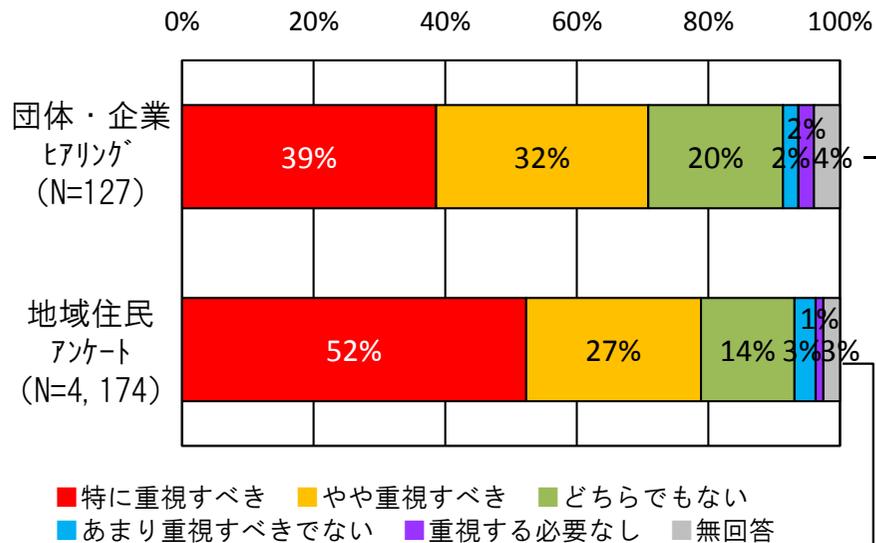
- ・ 阿蘇市、産山村では緊急搬送人数が年々増加傾向にあるうえ、高齢化が進行する中、熊本市内の第3次救急医療施設までの搬送時間が60分以上を要する地域があるため、高次医療施設までの速達性が図れるルート帯が望ましい。（熊本県）
- ・ 産山村は、平日の昼間以外は医者が常駐していない無医村であり、救急患者の搬送時間短縮は特に重視すべき項目である。（産山村）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑤大分市・熊本市の市街地へ1時間以内に多くの人が行けること】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、大分市・熊本市への時間短縮や雇用地域の拡大への期待が挙げられている。
- 自治体意見においては、定住促進の観点から市街地への速達性の低さが問題視されている。



- 中九州横断道路の開通により、大分市からの求人可能なエリアが広がる。（大分市）
- 竹田市は、非常に人手不足。遠くから人手を雇える。（竹田市）
- 竹田市は高齢者が多く、地域内での移動の方が多いため、大分市や熊本市までの移動時間は重視しなくてよい。（竹田市）

- 都市との交通アクセス60分内を実現化すれば、都市と田舎の交流及び企業誘致などに期待できる。（産山村）
- 大分市・熊本市の市街地への時間短縮が特に重要だと感じる。（阿蘇市）
- 大分・熊本間の移動時間が短縮されることは最大の利点である。（阿蘇市）
- 熊本へ遊びに行く時に今より短い時間、ストレスの溜まらない道にしてほしい。（竹田市）
- 中九州横断道路ができれば、竹田や大分に行く機会も増えると思う。（熊本市）

【自治体意見】

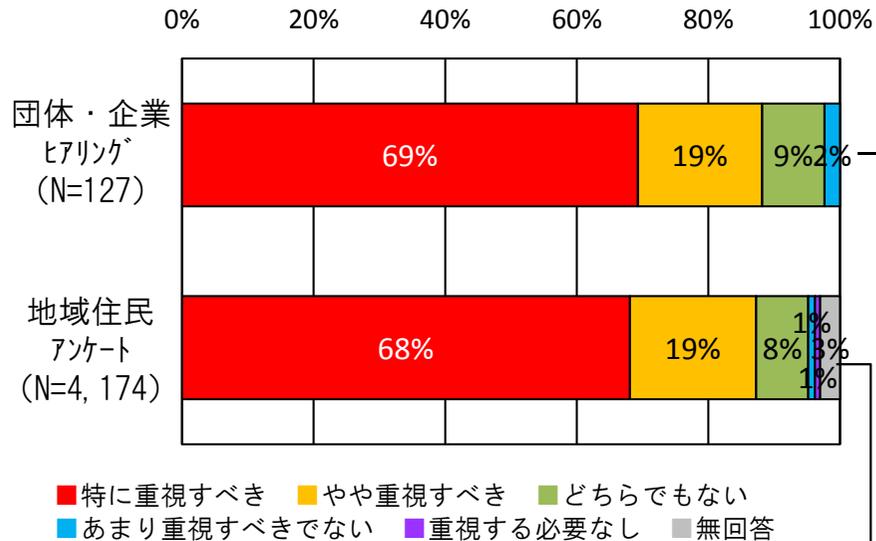
- ・ 大分に隣接する産山村の生活圏は竹田市や大分市に行く村民も多い為、1時間以内で移動できることは大変重視している。（産山村）
- ・ 阿蘇市、産山村の一部の地域においては、熊本方面への買い物や通勤等に、60分以上要しており、定住促進の阻害要因の一つとなっているものと考えられる。そのため、定住を促進し、集落等の維持・活性化を図るため、速達性が向上されるルート帯が望ましい。（熊本県）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑥事故の危険性が少ないこと】

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、交通事故の減少に対する期待が寄せられている。
- 自治体意見においても、交通事故が発生するリスクの軽減に期待する意見が寄せられた。



- 竹田市街地のあたりで事故が多いため、中九州横断道路の整備で事故が減ることに期待する。（竹田市）
- 交通安全面を重視してほしい。（竹田市）
- 安全性から考えて別線のほうが良い。（竹田市）
- 信号がある方が、スピードを出しにくいいため事故が減ると思う。（阿蘇市）

- 交通量はかなり多いと思うので、事故が起きにくいことも重要視すべき。（竹田市）
- 安全、人命に関わるのが第一だと思う。（阿蘇市）
- 高齢運転者の事故防止を考えると、沿線から容易に流入できない方がよい。（竹田市）
- 事故の発生しないような構造にしてほしい。（竹田市）

【自治体意見】

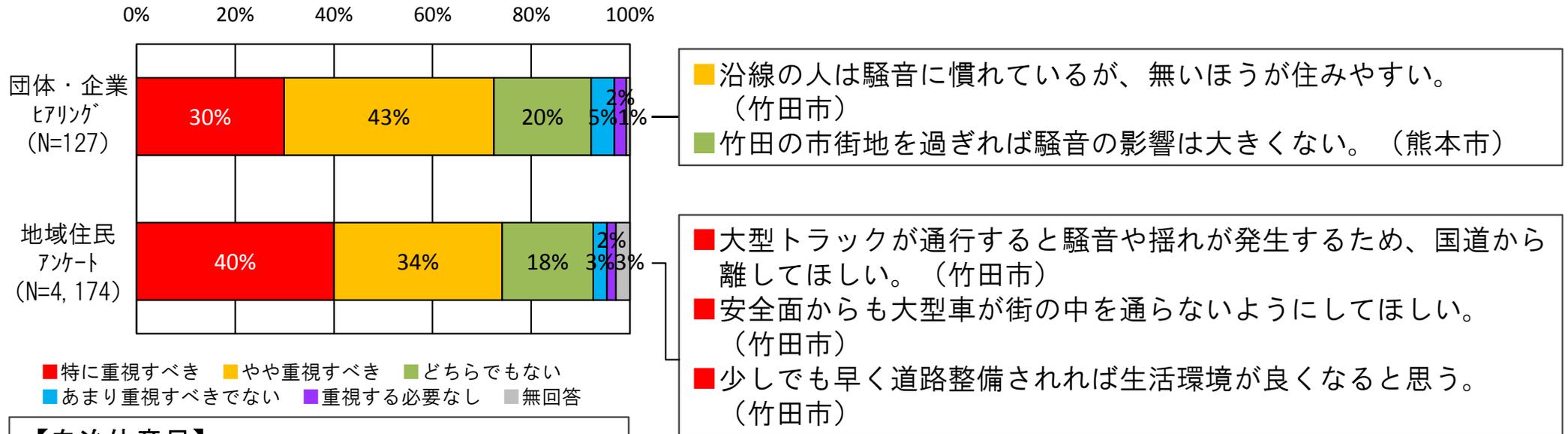
- ・ 中九州横断道路の事故の危険性を抑える配慮が必要であり、併せて、開通に伴う現国道57号の通行量減少への期待から、高齢化が著しい本市において事故の危険性が少ないことは、特に重視すべき点である。（竹田市）
- ・ 中九州横断道路開通に伴う交通量の増加を勘案すると、幹線道路と生活道路の機能が分離された方が交通事故発生リスクは軽減されると思料されることから、自動車専用道路での整備が望ましい。（大分県）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑦生活環境（騒音など）への影響が小さいこと】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、騒音や振動などによる生活環境への影響が少ないルートが求められている。
- 自治体意見においても、生活環境への影響が小さいことを重視している。



【自治体意見】

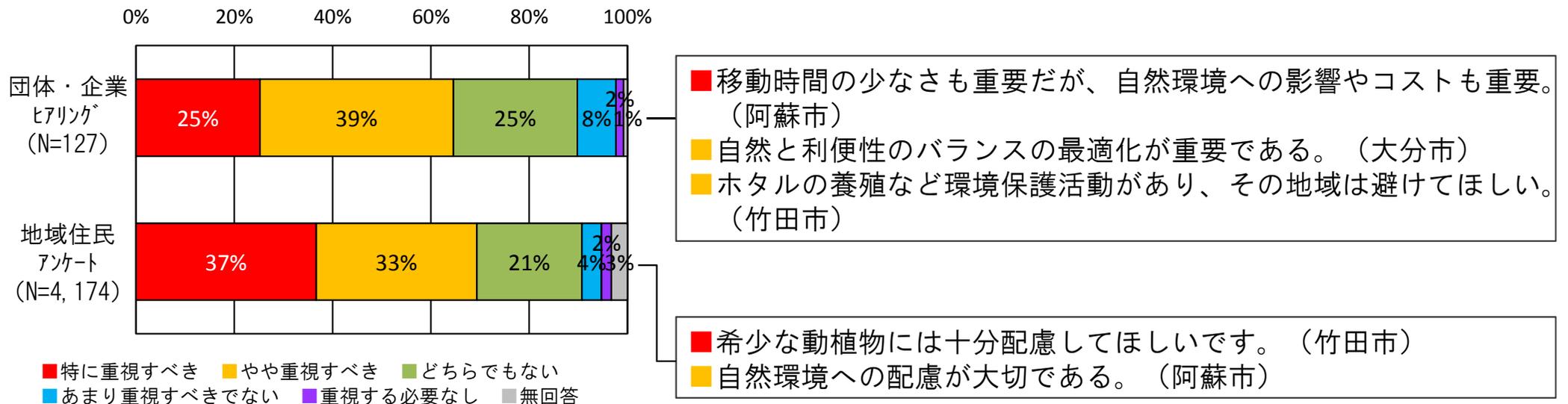
- ・ 道路交通が与える生活環境への影響は決して小さくない。騒音や振動は隣接居住者にとって日常生活の安定を欠くこととなる。影響が小さいことは重要である。（阿蘇市）
- ・ 対象区間は、大型車交通量や大型車混入率が熊本・大分県の国道平均を大きく上回っているため、供用後の生活環境への影響が最も小さいルート帯が望ましい。（熊本県）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑧自然環境（動物、植物など）への影響が小さいこと】

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、自然環境へ配慮した道路整備が求められている。
- 自治体意見においては、国立公園等の自然環境への影響が小さいことを重視している。



【自治体意見】

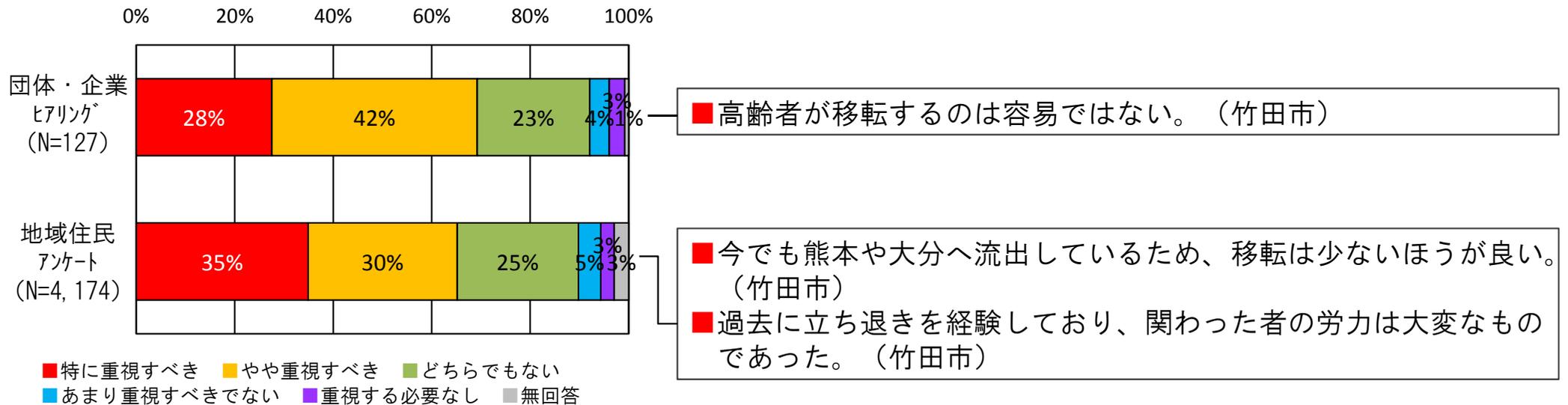
- ・ 阿蘇くじゅう国立公園や草原景観が持つ**自然的価値を後世に残す必要がある**。動植物の生息地付近を回避し、**自然環境を守り、景観にも配慮することは重要**である。（阿蘇市）
- ・ 本市は、阿蘇くじゅう国立公園や祖母、傾、大崩ユネスコエコパークをはじめとする**自然遺産等の環境保護や整備に取り組んでおり**、本道路についても**影響を小さくすることは特に重視すべき**である。（竹田市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑨移転する家屋が少ないこと】

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、家屋移転を極力少なくすることが求められている。
- 自治体意見においても、家屋移転による地域への影響が少ないことが求められている。



【自治体意見】

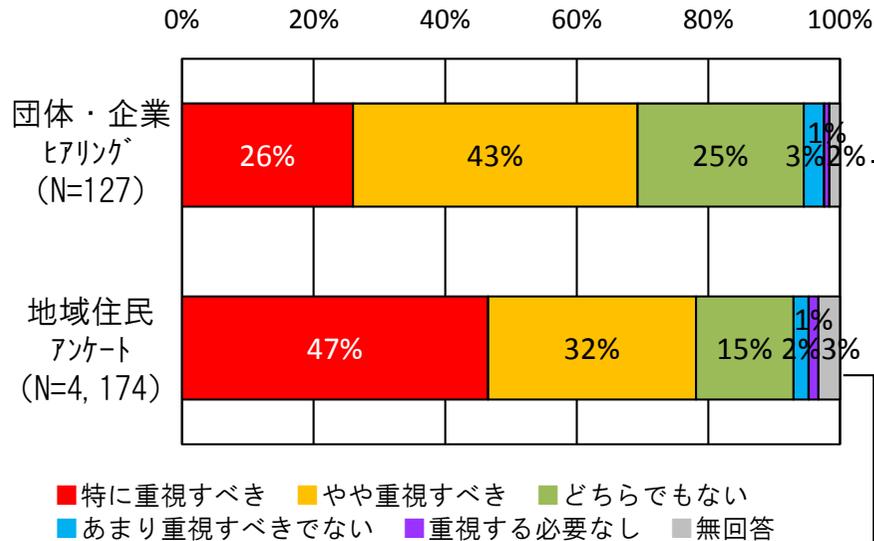
- ・ 移転家屋は、対象者にとっては大きな労力を要すものであり、また移転を機に市外へ流出することも懸念されること等から、移転家屋が少ないことは特に重視すべきである。
（竹田市）
- ・ 対象区間周辺は、小規模な集落が点在しており、それらのコミュニティを分断しないルート帯が望ましい。（阿蘇市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑩沿道からの利用が便利なこと】

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、現道からの使いやすさが求められている。
- 自治体意見においては、速達性・安全性の面からアクセス制限は必要との意見が寄せられた。



- 防災も大事だが、バイパスが出来ると商店が衰退する。（竹田市）
- 現道を中心とし、中九州横断道路とのアクセス道路も必要。（竹田市）
- バイパスとなると商売をしている身としてはあまり良くない。（竹田市）

- 渋滞の緩和とアクセスの良さは最も重視すべき。（阿蘇市）
- 代替路として使用するのであれば、インターチェンジを多くしてアクセスを良くすべき。（竹田市）
- 国道57号のバイパスであっても、インターチェンジを多くしてどこからでもアクセス出来るようにすべき。（竹田市）

【自治体意見】

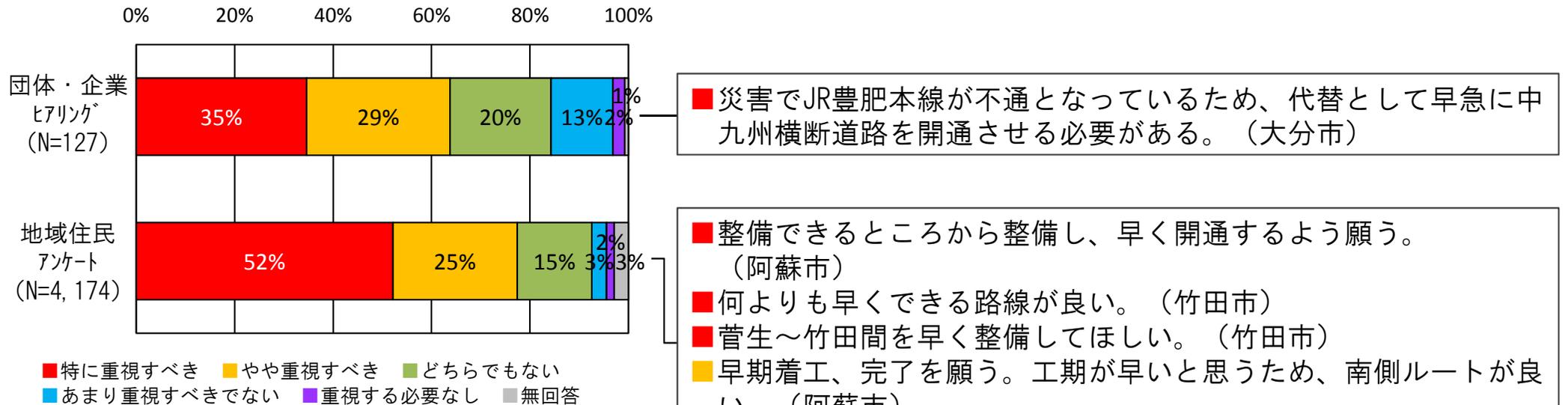
- ・ 高速交通ネットワークの一部として、**速達性・安全性の高い道路が必要である**と考えているため、**沿道からの利用が出来ない構造**が望ましい。（熊本県）
- ・ 防災、物流・産業、観光などの観点から沿道からのアクセス制限が必要であるが、**道の駅等の既存施設の機能を極力毀損せず有効活用が図れる**よう、インターチェンジの設置位置の計画にあたっては**沿道利用への配慮が必要**と考える。（大分県）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑩早くに整備効果が望めること】

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、より早期に効果を実感できることが求められている。
- 自治体意見においても、早期の整備効果を期待する意見が寄せられた。



■ 災害でJR豊肥本線が不通となっているため、代替として早急に中九州横断道路を開通させる必要がある。（大分市）

- 整備できるところから整備し、早く開通するよう願う。（阿蘇市）
- 何よりも早くできる路線が良い。（竹田市）
- 菅生～竹田間を早く整備してほしい。（竹田市）
- 早期着工、完了を願う。工期が早いと思うため、南側ルートが良い。（阿蘇市）
- 費用が安く、早く開通できるため、現状の国道57号を改良し活用する案が良い。（竹田市）

【自治体意見】

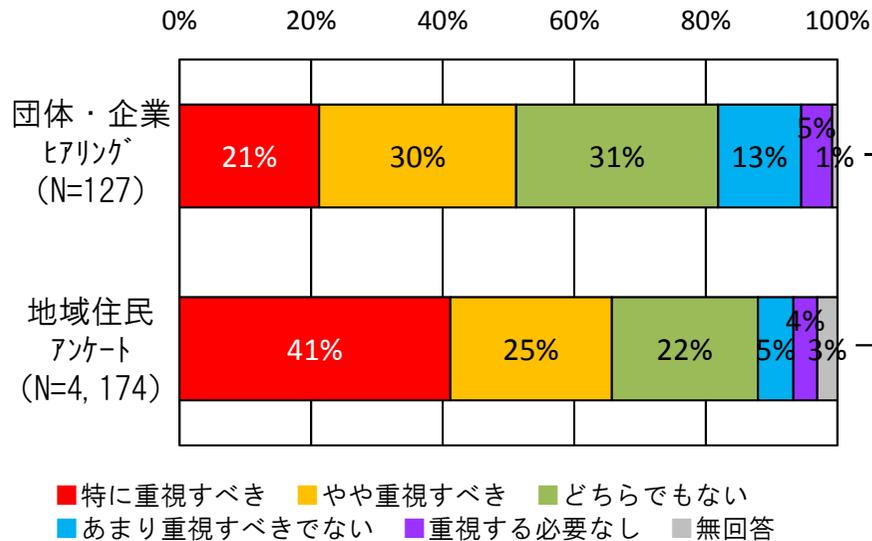
- ・ インターチェンジ間の部分開通など、**早期に事業効果が発現されることを希望**する。（大分県）
- ・ **国道57号線は阿蘇地域において生命線**である。救援ルートの確保、防災機能の強化、産業や地域経済の活性化、観光振興など**様々なストック効果が望まれるため、早期の整備効果に期待**する。（阿蘇市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑫整備費用が安いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、5割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、整備費用を抑えることより安全な道路の整備が求められている。
- 自治体意見においても、安全性や利便性を満足した上でのコスト縮減が求められている。



- 安全に迅速に整備するための予算はある程度必要である。（阿蘇市）
- 整備費用の高い安いより、構造やルートにおいてより良い形で整備されることを望む。（竹田市）
- お金をかけてでもきちんとした道路を作ってほしい。（竹田市）
- お金は高くてもバイパス整備が良い。（阿蘇市）

- 無駄な金は使わずに地域の人役に立つようにしてほしい。（阿蘇市）
- 道路の利用しやすさは大事であるが、費用が安いことが良いと思う。（竹田市）
- 税金は少なく使ったほうが良い。（産山村）
- 整備費用が安易に安くなると、維持管理や不必要な長寿命化対策の発生が考えられるため、長く安全に利用できるように設計を願う。（日田市）

【自治体意見】

- ・ 整備費用の確保は整備スピードに大きな影響を与えられるが、単に安価というわけではなく、コストパフォーマンスの高い整備が望まれる。（阿蘇市）
- ・ 整備費用を安く抑えることは必要なことであるが、走行性や安全性あるいは利便性など必要な機能を満足した上での、コスト縮減を図るべきである。（竹田市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（ルート帯案に関すること）

■自治体への意見聴取結果

<大分県>

- ・海路と陸路が結節する本県は、九州の東の玄関口として人・物が集積する拠点としてのポテンシャルが大いに高まっているが、熊本方面から大分港を利用する物流ルートを強化するためには、輸送の時間や輸送の質の観点から自動車専用道路が望ましい。
- ・救急医療体制の整備・充実の観点からすると、「第三次救急医療施設から60分圏域の人口」の拡大が最も見込まれるルートが望ましい。

<熊本県>

- ・代替路となる道路がない当区間においては、災害時に代替路として利用できるように、別ルートとして整備されることが望ましい。
- ・速達性・安全性が高い自動車専用道路が必要であると考えているが、可能な限りコスト縮減を図るなど、経済的な構造となることが望ましい。

<竹田市>

- ・本市は、九州のほぼ中央部に位置することから、大分・熊本両市の中心部までには2時間近い移動時間を要している。市民の暮らしの利便性を高めることから1時間以内に多くの人が行けることは特に重視すべきである。
- ・本道路の利便性を高めるためにも、地域の幹線的道路との接続に配慮するなど、沿道からの利用が便利なのは、特に重視すべきである。

<阿蘇市>

- ・冬季は積雪などの影響を受けやすくスリップや追突事故が多発し、交通渋滞の要因となっている。見通しがよく、沿道出入り箇所や交差点が少ないことは、事故の発生リスクを減少させ、より安全性が向上する。
- ・沿道からのアクセスは重要な指標であり、必ずしもどこからでもアクセスできる必要性は低いですが、アクセスポイントまでの利便性を考慮することは重要である。

<産山村>

- ・大分県に隣接する産山村は、竹田市や大分市に行く村民も多い為、1時間以内で移動できることは大変重視している。
- ・代替となるルート案で多少事業費がかかっても安全な道路を希望する。

<その他>

- ・エコパークなど竹田市と連携して実施しているため、自然環境に配慮してほしい。（豊後大野市）
- ・観光の観点から、大分までのアクセスが早いことは良い。（西原村）
- ・中九州横断道路は観光や企業活動に効果が出るため期待している。（合志市）
- ・福岡～熊本～大分の周遊ルートとして期待しており、外国人観光客の利用増加等のメリットも考えられる。（大分市）
- ・中九州横断道路の整備によって、大分や四国地方の観光客が熊本へ入ってくることに期待する。（熊本市）



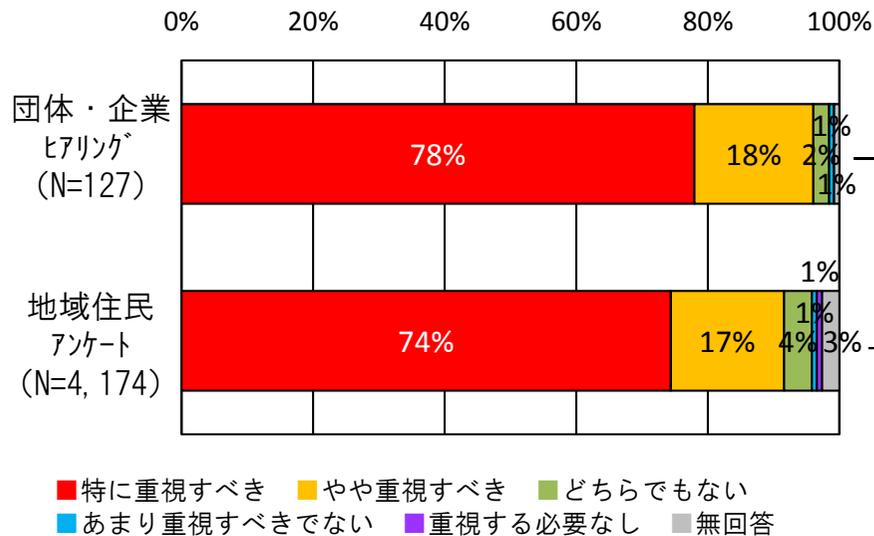
第2回意見聴取の結果

(2) インターチェンジに関すること

第2回意見聴取の結果(インターチェンジに関すること)

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑬災害時に安全かつ円滑にアクセスすること】

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、災害時に円滑なアクセスができ、安全性の高い位置への設置が求められている。
- 自治体意見においては、防災拠点からアクセスがしやすい位置への設置が求められている。



■ インターチェンジは、災害時に安全かつ円滑にアクセスする為、集落から程々の距離で被害を受けにくい場所がいい。(阿蘇市)
■ 防災上はインターチェンジを集落から程々離れたほうが良いと思う。(熊本市)

■ 災害時にインターチェンジ以外に乗入れできる箇所を設置してほしい。(阿蘇市)
■ 災害時においても、平時においても緊急車両のアクセスのしやすさは重要。(阿蘇市)
■ 代替路として使用するのであれば、インターチェンジを多くしてアクセスを良くするべきである。(竹田市)
■ 高齢化時代を迎え、中九州横断道路は命の道路であり、国道442号のインターチェンジが必要。(無回答)

【自治体意見】

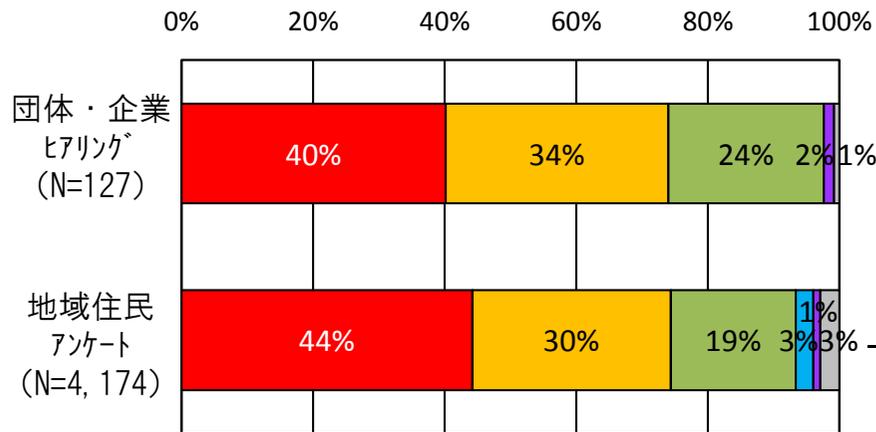
- ・ 防災上、沿線地域へのアクセスが良く、救援部隊が進出しやすい位置、かつ、受援の観点から、応援部隊活動拠点や輸送拠点からアクセスが良い位置に計画していただきたい。(大分県)
- ・ 平成24年九州北部豪雨災害、平成28年熊本地震、平成29年九州北部豪雨などの大災害が頻発に発生している状況の中、防災拠点等の施設から円滑にアクセスできるインターチェンジの位置が望ましい。(熊本県)

※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（インターチェンジに関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑭産業施設に近接し、大分市・熊本市の卸売市場間の移動時間が短いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、7割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、地域の産業施設へアクセスしやすい位置への設置が求められている。
- 自治体意見においては、産業施設からの利便性や速達性を重視する意見が寄せられた。



- JAの野菜集出荷場にはインターチェンジを近づけたほうが良い。（竹田市）
- 竹田市菅生地区と荻地区の野菜集出荷場からアクセスしやすい路線を望む。（竹田市）
- インターチェンジは国道57号道の駅に接続できる場所が良い。（竹田市）

【自治体意見】

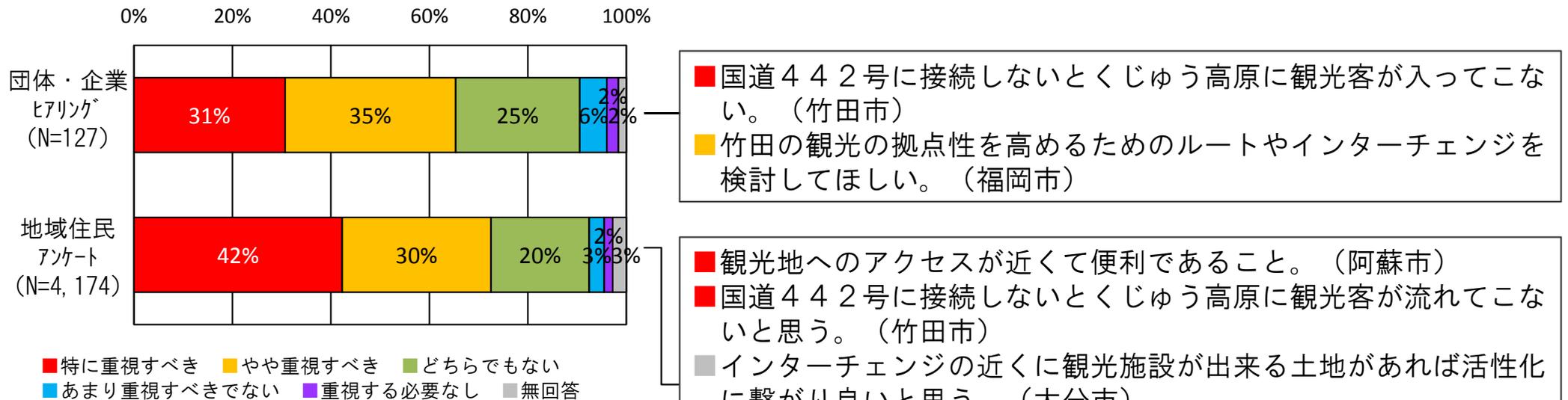
- ・ 産業施設間の移動時間が短く走りやすいことで、平時、災害時において安定的な物流ルートが確保され、輸送にかかるコスト減へと繋がることから、ルート帯と同様にインターチェンジの位置も重要である。（阿蘇市）
- ・ 沿道地域は、大分県内でも有数の農業地帯であり、各産業施設からの利便性に配慮した計画を希望する。（竹田市）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100にならない場合がある

第2回意見聴取の結果(インターチェンジに関すること)

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果 【⑮観光地に近接し、観光地間の移動時間が短いこと】

- いずれの意見聴取方法においても、6割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、くじゅう高原へアクセスしやすい位置への設置が求められている。
- 自治体意見においては、観光地へのアクセスに配慮した計画が求められている。



■ 国道442号に接続しないとくじゅう高原に観光客が入ってこない。(竹田市)
 ■ 竹田の観光の拠点性を高めるためのルートやインターチェンジを検討してほしい。(福岡市)

■ 観光地へのアクセスが近くて便利であること。(阿蘇市)
 ■ 国道442号に接続しないとくじゅう高原に観光客が流れてこないと思う。(竹田市)
 ■ インターチェンジの近くに観光施設が出来る土地があれば活性化に繋がりに良いと思う。(大分市)
 ■ 福岡からくじゅう高原へ来る客が多いため、国道442号へのインターチェンジが重要である。(無回答)

【自治体意見】

- 沿道地域には、阿蘇くじゅう国立公園や岡城をはじめ歴史的文化施設等、全国でも有数の観光資源を有しており、こうした観光地へのアクセスに配慮したインターチェンジの配置を希望する。(竹田市)
- 「阿蘇くじゅう国立公園」をはじめ、多くの観光地が存在する地域であるため、周遊性の観点から主要な観光地等へのアクセスを考慮した適切なインターチェンジの配置とすることが望ましい。(熊本県)

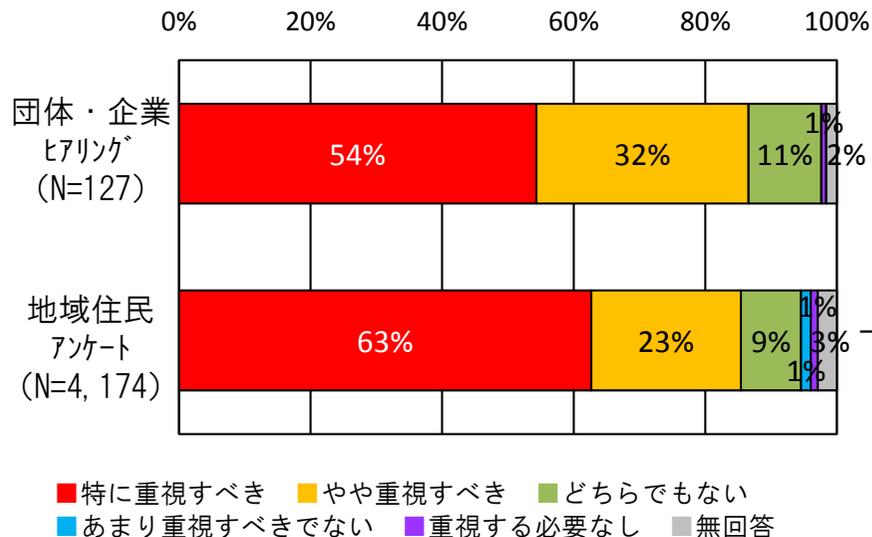
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（インターチェンジに関すること）

■ 団体・企業、地域住民への意見聴取結果

【⑩集落に近接し、多くの人が早く大分市・熊本市の市街地や第3次救急医療施設に行けること】

- いずれの意見聴取方法においても、8割以上が重視すべきという傾向にある。
- 自由意見では、集落へアクセスしやすい位置への設置が求められている。
- 自治体意見においては、高次救急医療施設への速やかなアクセスが求められている。



■ インターチェンジは集落に近いほうが良い。（熊本市）
 ■ ルートやインターチェンジは、当然集落に近い方が住んでいる人の利便性向上につながる。（福岡市）

■ 代替路の確保や各地域からのアクセス性を最重要視する。（竹田市）
 ■ 医療施設への移送を考慮すると、集落へのアクセスがしやすいルートを選定すべき。（竹田市）
 ■ 産山村からのアクセスが便利だと利用しやすい。（竹田市）
 ■ 拠点ごとにインターチェンジを設置すると良い。（竹田市）

【自治体意見】

- ・ 阿蘇市、産山村の一部地域では、熊本市内の第3次救急医療施設までの搬送時間が60分以上を要する地域があるため、集落から高次医療施設まで速やかにアクセスできるインターチェンジとすることが望ましい。（熊本県）
- ・ 救急医療は主に、熊本市内又は大分市内の救急病院と連携し救急車又は、ドクターヘリの搬送となっており、一刻を有す状況の中では、1分でも近いアクセスが必要であり、搬送時間の短縮は必要不可欠の状況。（産山村）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

第2回意見聴取の結果（インターチェンジに関すること）

■自治体への意見聴取結果

<大分県>

- ・沿道地域は大分県内有数の農業地帯であり、産地からインターチェンジへのアクセスが良好な位置に計画すべき。
- ・観光資源間のアクセス性を向上させ、観光回遊ルートを確立させるため、観光資源に配慮したインターチェンジの配置を望む。

<熊本県>

- ・「阿蘇くじゅう国立公園」をはじめ、多くの観光地が存在する地域であるため、周遊性の観点から主要な観光地等へのアクセスを考慮した適切なインターチェンジの配置とすることが望ましい。
- ・阿蘇市、産山村の一部地域では、熊本市内の第3次救急医療施設までの搬送時間が60分以上を要する地域があるため、集落から高次医療施設まで速やかにアクセスできるインターチェンジの配置とすることが望ましい。

<竹田市>

- ・移動時間や搬送時間短縮の観点から、多くの人々が利用しやすい位置への配置計画を望む。
- ・災害時に安全かつ円滑にアクセスできることは特に重視すべきである。

<阿蘇市>

- ・高齢化社会を迎え、高度医療機関での医療を必要とする地域の患者さんは少なくない。安全性が高く渋滞などの影響を受けず円滑な移動は救命活動の向上に繋がる。地域連携医療においても、効果が期待される。ルート帯と同様にインターチェンジの位置（集落や病院の近く等）も重要である。
- ・災害に強い代替道路の確保が近々の課題である。災害時に安全かつ円滑にアクセスできることは、重要である。

<産山村>

- ・産山村に近いルートで、うぶやま牧場や池山水源へ短時間でいけることを希望する。
- ・可能な限り産山村に近いルートで産山村の物流に考慮して欲しい。

<その他>

- ・観光客が入って来やすいように幹線道路にインターチェンジを設置してほしい。（高森町）